

2013 年 8 月

「物価と消費に関するアンケート」結果

暮らし向きは大幅に回復するも、先行きは不透明

円安などの影響で、半数以上がガソリン代や電気代の値上がりを実感。
景況感の回復ムードから、「100 万円以上」の高額消費が 1 割を超える。

アベノミクスにより、株価の上昇や景況感の回復ムードが高まっている。一方で、円安や光熱費の上昇に伴い食料品の値上げなどが続いている。このような状況が家計にどのような影響を及ぼしているのか個人消費の動向を調査するために、滋賀銀行の店頭にご来店の女性を対象に、「2013 年夏季、物価と消費に関するアンケート」調査を行い、県内在住者の結果についてまとめた。

【調査の概要】

- ◆調査名：「2013 年夏季、物価と消費に関するアンケート」
- ◆調査時期：6 月 18 日（火）～20 日（木）の 3 日間
- ◆調査対象：滋賀銀行本支店 112 カ店にご来店の女性（県内在住者のみ）
- ◆有効回答数：674 人

{	うち 29 歳以下：136 人、30 歳代：111 人、40 歳代：160 人、 50 歳代：149 人、60 歳以上：118 人
---	--

【調査結果の概要】

◆定例項目

- ・現在の「暮らし向き DI」は-9.2 で、前回（-15.4）から大幅に上昇。半年後は-15.1 で悪化する見通し。
- ・現在の「世帯収入 DI」は-11.6 で、前回（-11.5）と比べて横ばい。半年後は-16.8 で悪化する見通し。
- ・現在の「物価 DI」は+56.1 で、前回（+33.3）から大幅に上昇。半年後は+74.3 で上昇基調が続く見通し。
- ・「耐久消費財の買い時として、今と比べて今後半年間でどうなると思うか」については、依然、厳しい状況が続く。
- ・最近の世帯で「支出が増えた」項目は、「光熱・水道費」（41.2%）、「食料費」（37.4%）。
「支出が減った」項目は、「外食など飲食費」（37.8%）、「旅行・レジャー費」（31.9%）。
- ・最近の消費行動として、「増えた消費行動」は「まとめ買い」（29.0%）が、「減った消費行動」は「電気・水道の使用」（25.2%）がそれぞれ前回調査より増加した。

◆特別項目① 円安などの影響による物価の上昇について

- ・値上がりを実感するものは、「ガソリン・灯油」が 6 割、「電気代」が 5 割を超えた。
- ・節約するものは「電気代」と「外食費」が 4 割、「レジャー費」が 3 割となった。

◆特別項目② 高額商品のサービスの購入について

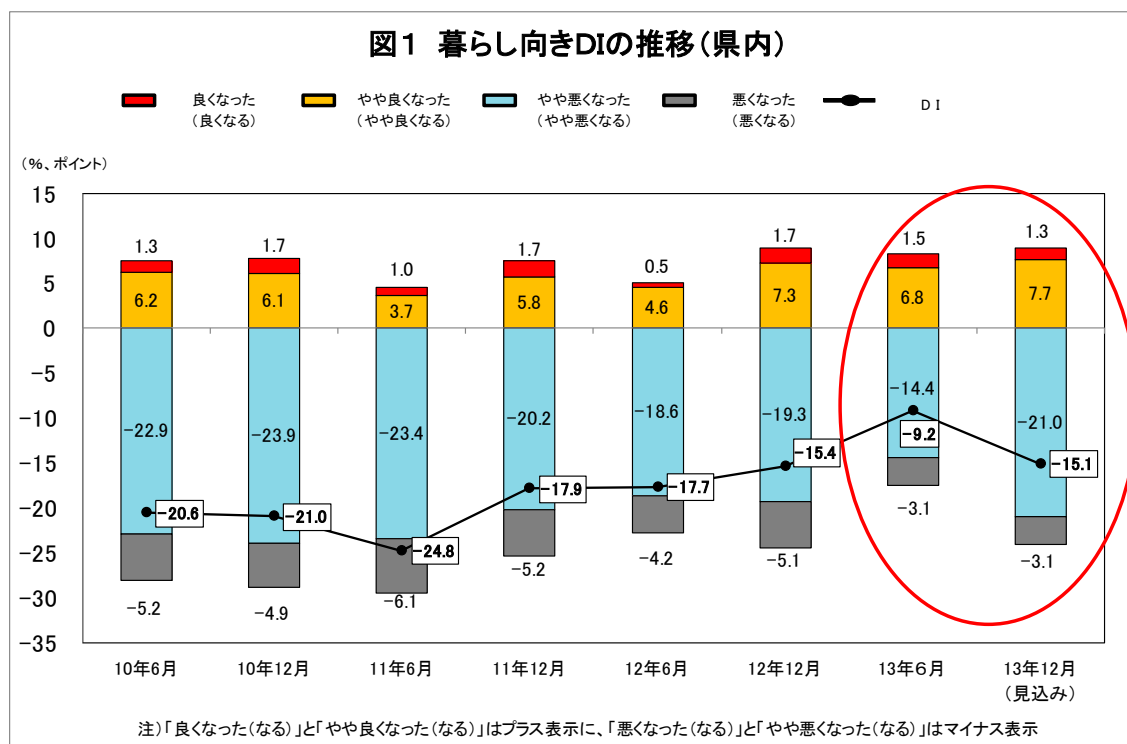
- ・今年購入した高額商品は、30 歳代以下で「服飾品」、40 歳代以上で「家電」が多かった。
- ・金額別では、60 歳以上の年代で「100 万円以上」の割合が 22.6%と、全体の 2 倍以上だった。
- ・業態別では、「専門店、小売店」が全体の 4 割で、年代が上がるにつれて割合が上がった。
- ・地域別では、「県内」は 40 歳代が最も多く、8 割近くにのぼった。

1. 定例項目

◆【暮らし向きDI】…大幅に回復するも、半年後は悪化の見通し

現在の「暮らし向きDI」(「良くなった」「やや良くなった」と回答した割合から「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した割合を引いた値)は-9.2 となり、前回(12 年 12 月:-15.4)から+6.2 ポイントと大幅に上昇した。景気回復ムードなどから、「暮らし向きDI」は上昇したとみられる。

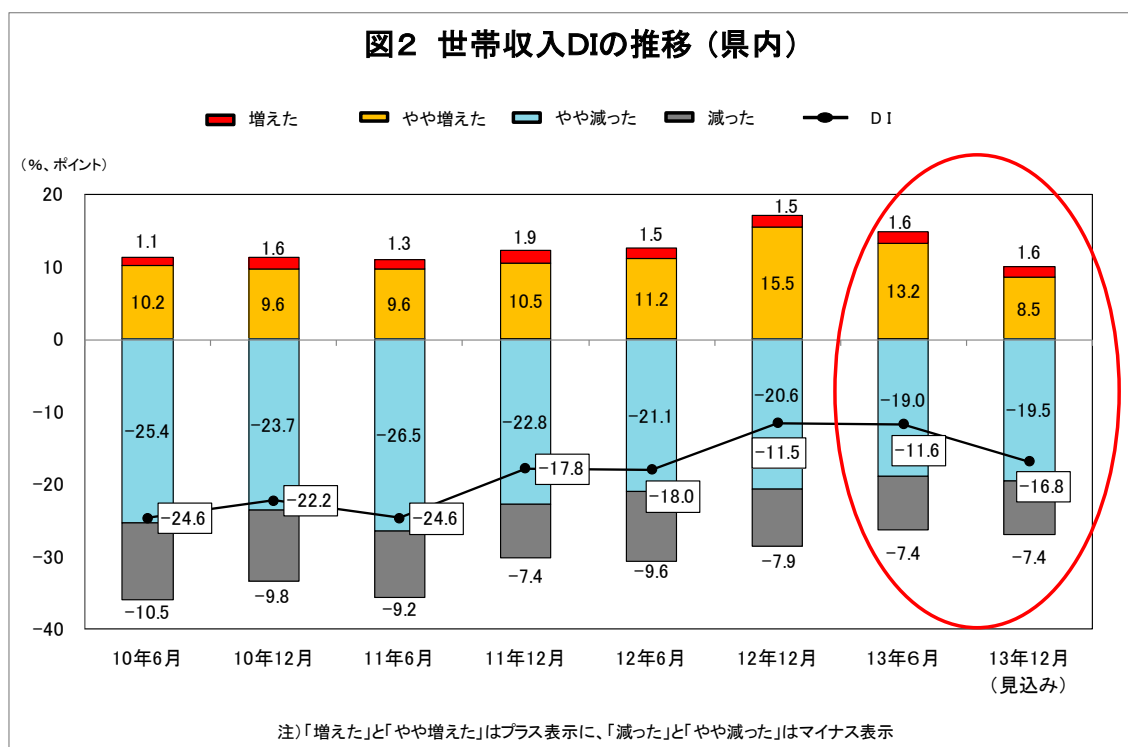
半年後の「暮らし向きDI」(同上)は-15.1 で、現状(-9.2)から-5.9 ポイントと悪化する見通しであり、先行きは不透明である。



◆【世帯収入DI】…横ばい、半年後は悪化の見通し

現在の「世帯収入DI」(「増えた」「やや増えた」と回答した割合から「減った」「やや減った」と回答した割合を引いた値)は-11.6で、前回(12年12月:-11.5)と比べて横ばいだった。

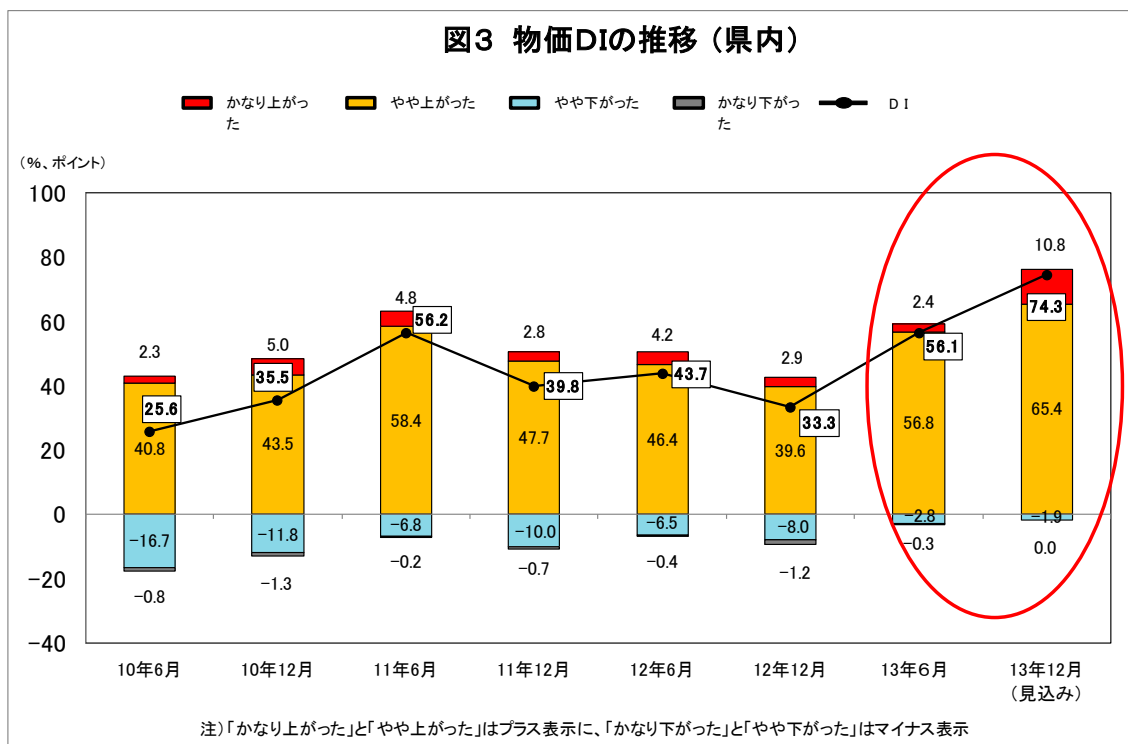
半年後の「世帯収入DI」(同上)は-16.8で、現状(-11.6)から-5.2ポイント低下する見通しである。



◆【物価D I】…物価は上昇、今後も上昇基調が続く見通し

現在の「物価D I」(「かなり上がった」「やや上がった」と回答した割合から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した割合を引いた値)は+56.1 となり、前回(12 年 12 月: +33.3) から+22.8 ポイントと大幅に上昇した。円安の影響、燃料や光熱費の上昇などから食料品や日用品などの値上げが続いている。

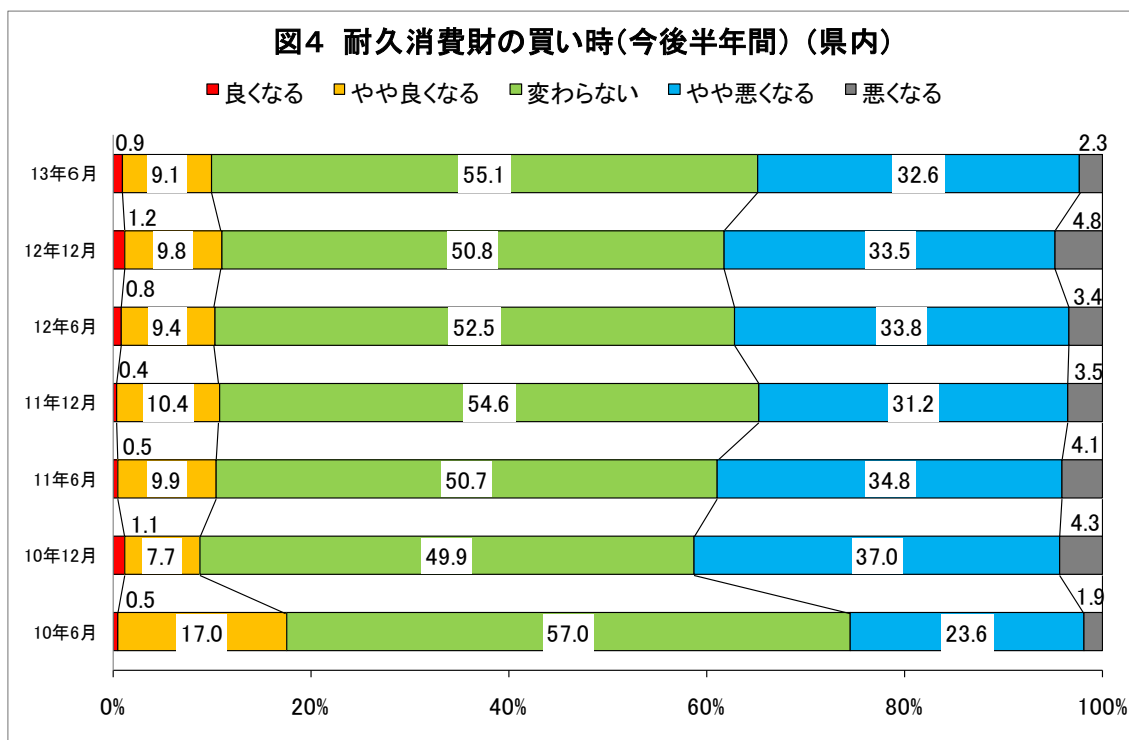
半年後の「物価D I」(同上)は+74.3 で、現状(+56.1) から+18.2 ポイントと上昇基調が続く見通しである。



◆【耐久消費財の購入】…依然、厳しい状態が続く

「耐久消費財の買い時として、今と比べて今後半年間でどうなると思うか」については、「良くなる」と「やや良くなる」の合計が 10.0%と、前回(12 年 12 月: 11.0%)から 1.0 ポイント低下した。

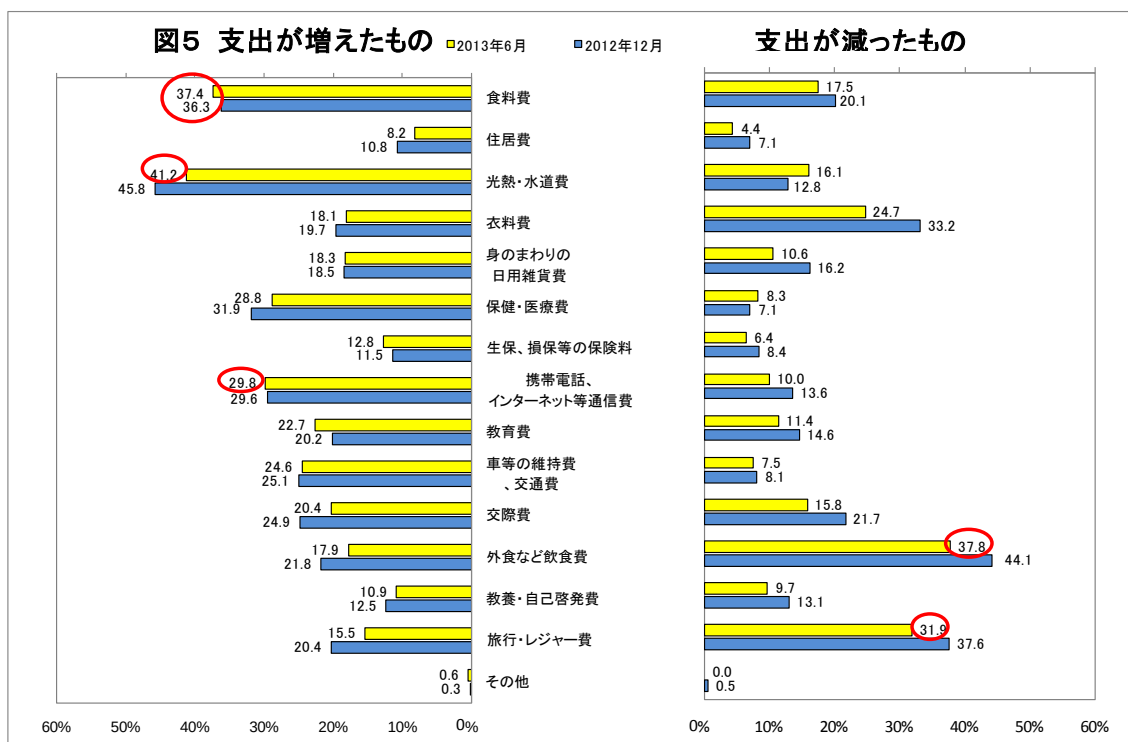
一方、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は 34.9%で前回(38.3%)から 3.4 ポイント低下したものの、依然、厳しい状態が続く。



◆【支出】…「食料費」が増加

「最近の世帯で支出が増えたもの、あるいは減ったものは何ですか」(複数回答)と尋ねたところ、支出が増えた項目では、「光熱・水道費」(41.2%)が最も多く、次いで「食料費」(37.4%)、「携帯電話、インターネット等通信費」(29.8%)となった。「食料費」については、前回調査(12年12月)より増加しており(36.3%→37.4%)、円安や光熱費の上昇に伴う食料品の値上げなどが影響しているようだ。

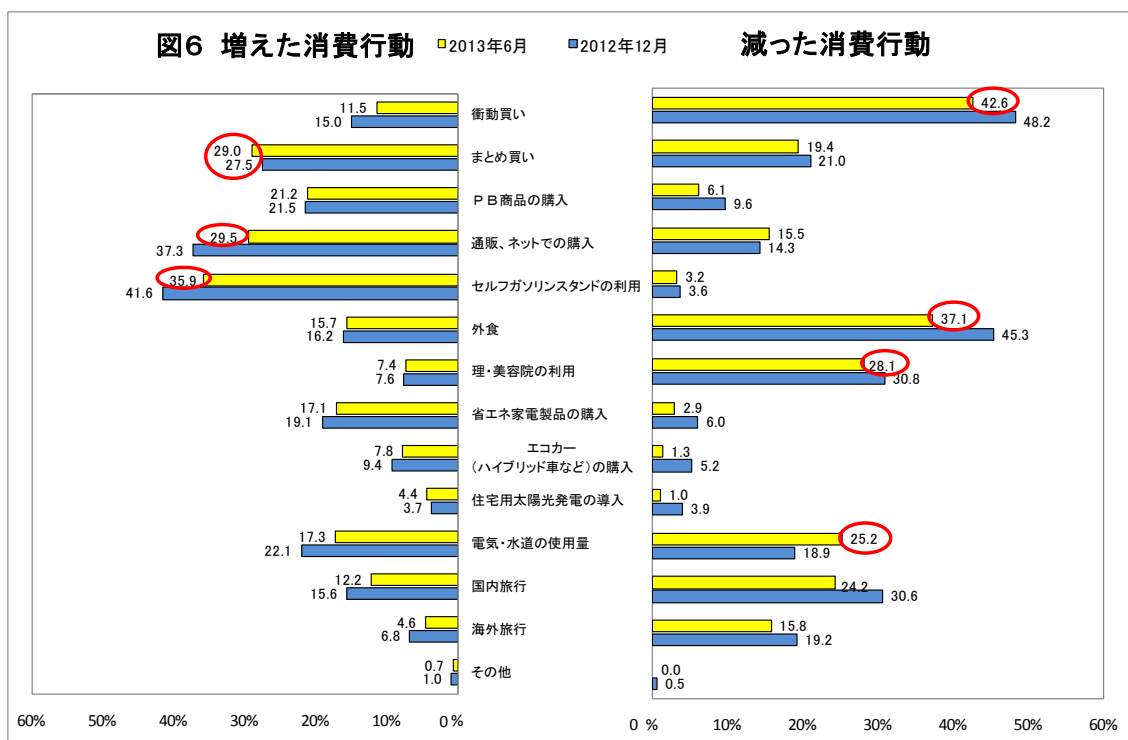
一方、支出が減った項目は「外食など飲食費」(37.8%)が最も多く、次いで「旅行・レジャー費」(31.9%)となった。



◆【消費行動】…「まとめ買い」が増加傾向

「最近の消費行動に変化はありますか」(複数回答)と尋ねたところ、増えた消費行動は、「セルフガソリンスタンドの利用」(35.9%)が前回調査時に続いて最も多く、次いで「通販、ネットでの購入」(29.5%)、「まとめ買い」(29.0%)と続き、「まとめ買い」は前回調査(12年12月)より増加した(27.5%→29.0%)。

一方、減った消費行動は、「衝動買い」(42.6%)が最も多く、次いで「外食」(37.1%)、「理・美容院の利用」(28.1%)、「電気・水道の使用」(25.2%)と続いた。特に、「電気・水道の使用量が減った」とする回答は、住宅用太陽光発電の導入や節電意識の高まりなどからか、前回調査(12年12月)より増加した(18.9%→25.2%)。



2. 特別項目① ～円安などの影響による物価の上昇について～

◆「ガソリン・灯油」で6割、「電気代」で5割以上が値上がりを実感

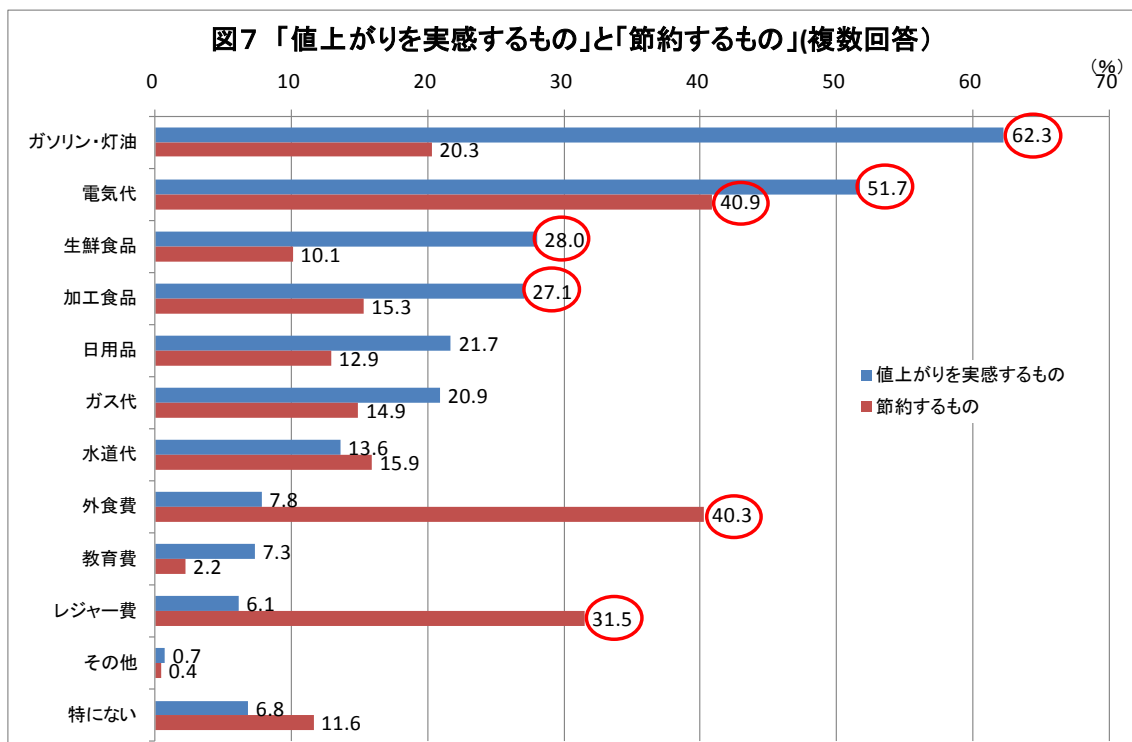
「値上がりを実感するもの」について尋ねたところ(図7)、「ガソリン・灯油」(62.3%)が6割を超え、トップとなった。次に「電気代」(51.7%)で半数を超え、以下、「生鮮食品」(28.0%)、「加工食品」(27.1%)などが続いた。

光熱費や食料費などが上位回答に挙がっており、円安などが影響しているものと思われる。なお、「特にない」は6.8%にとどまった。

◆値上がり対策では、4割以上が「電気代」と「外食費」を節約

値上がりにより「購入を控えるもの」や「節約するもの」を尋ねたところ(図7)、「電気代」(40.9%)がトップだった。以下、「値上がりを実感するもの」の質問では回答が少なかった「外食費」(40.3%)、「レジャー費」(31.5%)などの交際費関係が続いた。

「値上がりを実感するもの」で回答が多かった「ガソリン・灯油」は20.3%、「生鮮食品」は10.1%、「加工食品」は15.3%にとどまった。「特にない」は11.6%だった。



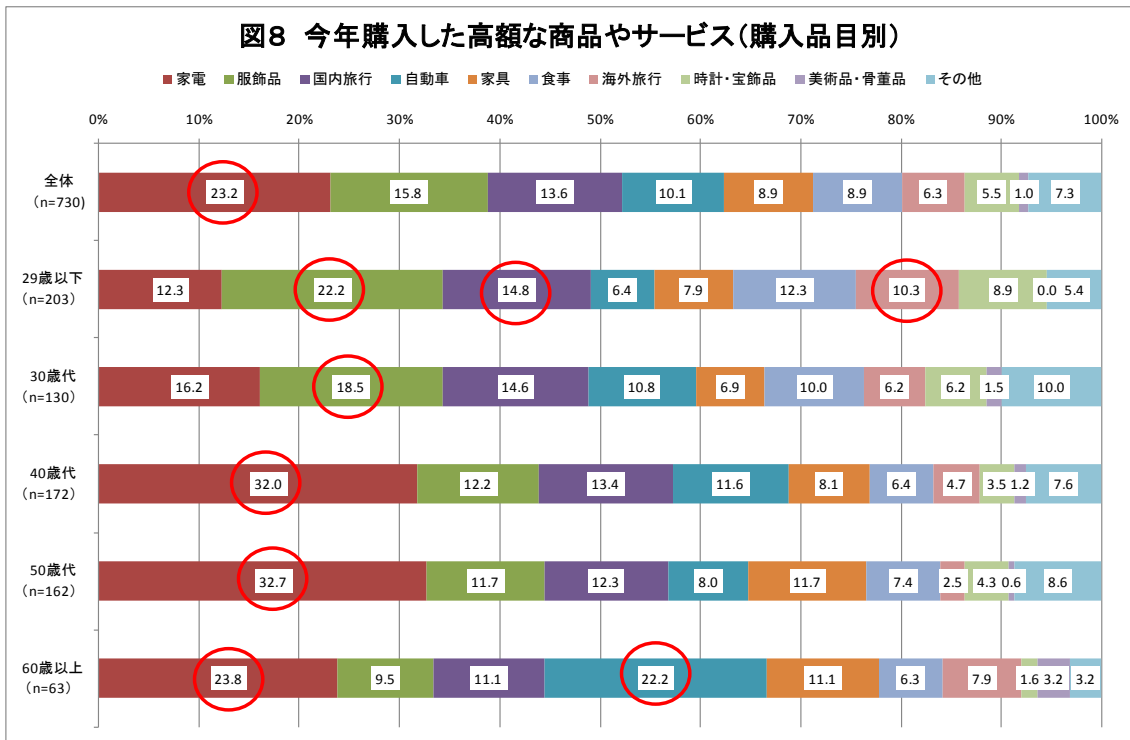
3. 特別項目② ～高額消費やサービスの購入について～

◆30 歳代以下は「服飾品」、40 歳代以上は「家電」がトップ

今年に入ってから購入した高額な商品やサービスについて、回答者一人あたり金額の高い順から 3 点まで尋ねたところ、合計で 730 件の回答を得た。

“購入品目別” にみると (図 8)、全体では「家電」が 23.2% でトップだった。以下、「服飾品」(15.8%)、「国内旅行」(13.6%)、「自動車」(10.1%) などが続いた。

年代別にみると、30 歳代以下 (29 歳以下、30 歳代) では「服飾品」がトップで、それぞれ 22.2%、18.5% だった。40 歳代以上 (40 歳代、50 歳代、60 歳以上) では、「家電」がトップでそれぞれ 32.0%、32.7%、23.8% だった。他の特徴としては、60 歳以上では「自動車」の割合が 22.2% と、他の年代より 10 ポイント以上高かった。また、29 歳以下では「旅行」が国内 (14.8%) と海外 (10.3%) を合わせて 25.1% にのぼった。

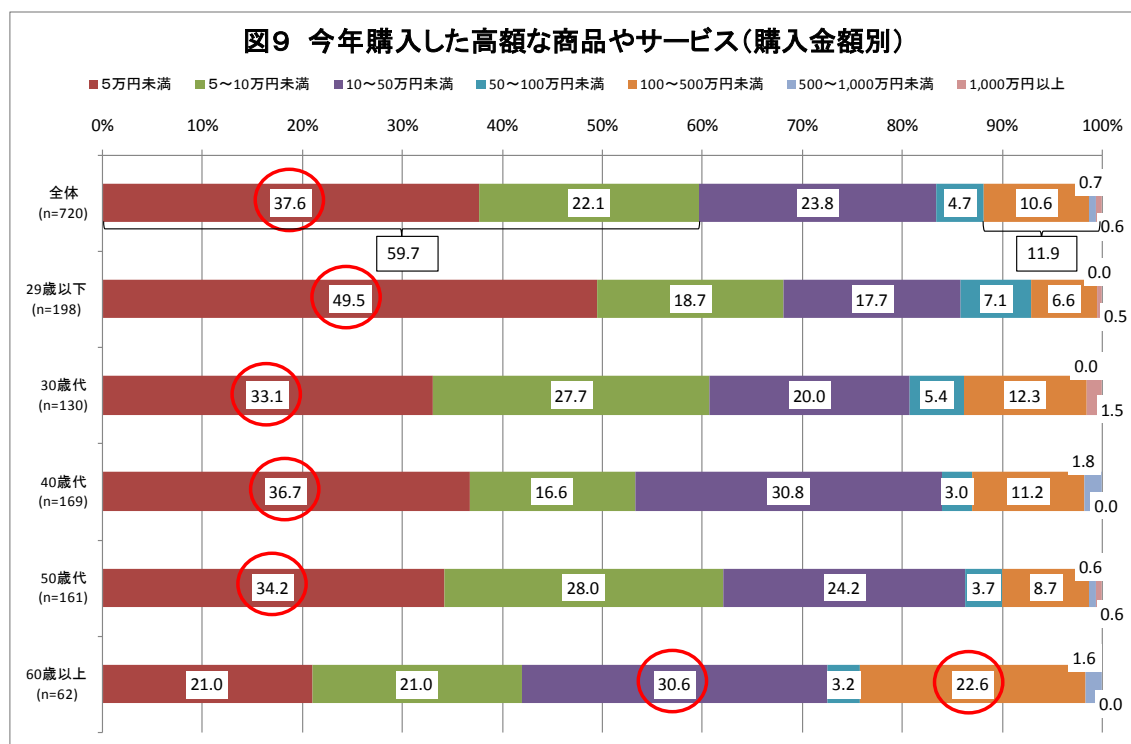


◆「100 万円以上」の高額消費が 1 割超

今年に入ってから購入した高額な商品やサービスについて、“購入金額別”にみると(図9)、全体では、「5 万円未満」が 37.6%でトップだった。「5～10 万円未満」(22.1%)を合わせた「10 万円未満」までの割合は 59.7%と、約 6 割を占めた。

「100～500 万円未満」は 10.6%、「500～1,000 万円未満」は 0.7%、「1,000 万円以上」は 0.6%で、「100 万円以上」の合計の割合は 11.9%と、1 割を超えた。

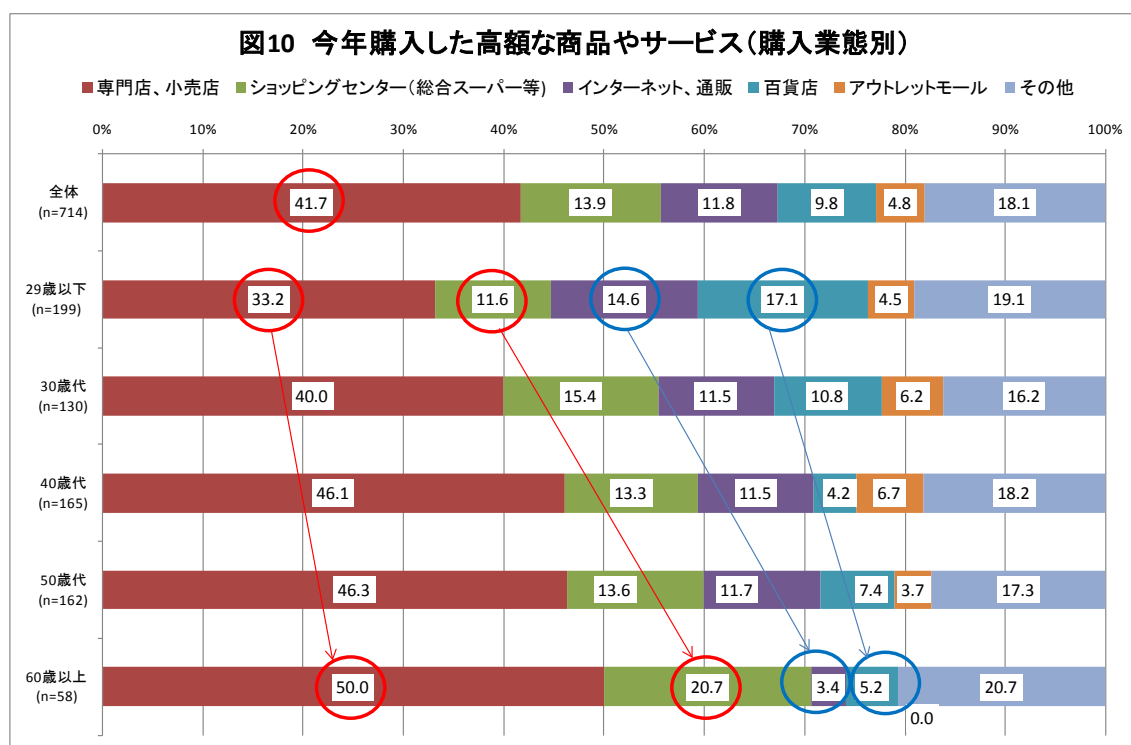
年代別にみると、50 歳代以下の各年代では「5 万円未満」の割合がトップで、「100 万円以上」の高額消費の割合は 10%前後にとどまった。一方、60 歳以上では最も多い購入金額が「10～50 万円未満」(30.6%)で、3 割を超えた。また、「100 万円～500 万円未満」は 22.6%で他の年代を大きく上回り、「100 万円以上」の高額消費の割合の合計は 24.2%と、他の年代より 10 ポイント以上高かった。



◆年代が上がるにつれ「専門店、小売店」「ショッピングセンター」が上昇

今年に入ってから購入した高額な商品やサービスについて、“購入業態別”にみると(図10)、全体では「専門店、小売店」が41.7%でトップだった。以下、「ショッピングセンター(総合スーパー等)」(13.9%)、「インターネット、通販」(11.8%)、「百貨店」(9.8%)などが続いた。

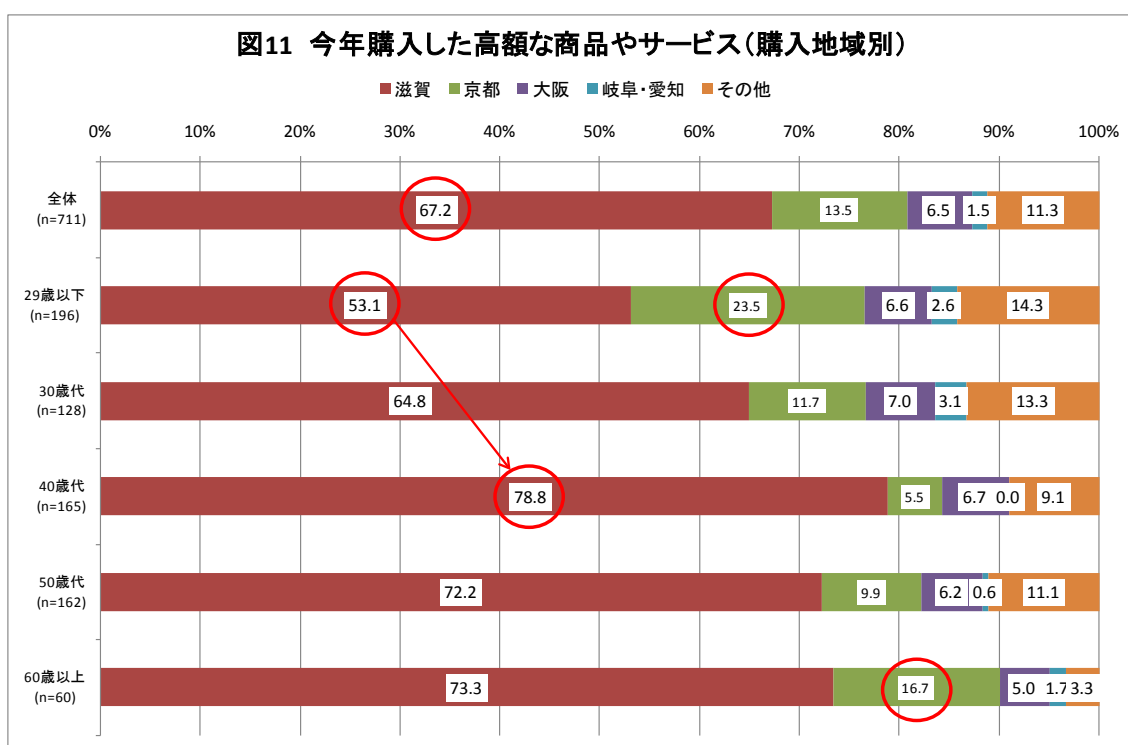
年代別にみると、全ての年代で「専門店、小売店」がトップだったが、年代別に変化が見られた。年齢が上がるにつれて「専門店、小売店」と「ショッピングセンター」の割合が増える一方で(それぞれ29歳以下:33.2%、11.6%→60歳以上:50.0%、20.7%)、「インターネット、通販」と「百貨店」の割合が下がった(それぞれ29歳以下:14.6%、17.1%→60歳以上:3.4%、5.2%)。



◆40 歳代の 8 割近くが県内で購入

今年に入ってから購入した高額な商品やサービスについて、“購入地域別”にみると(図 11)、全体では「滋賀」が 67.2%と、3 分の 2 以上を占めた。以下、「京都」(13.5%)が続ки、「大阪」は 6.5%、「岐阜・愛知」は 1.5%にとどまった。

年代別にみると、「滋賀」は全年代でトップだったが、年代ごとにばらつきが見られた。29 歳以下では「京都」(23.5%)を中心に県外が半数近くを占めたため、53.1%にとどまったが、30 歳代で 64.8%になり、特に 40 歳代では 8 割近い 78.8%にのぼった。また、50 歳代以上で「滋賀」の割合が低下した一方で、60 歳以上では「京都」が年代別で 2 番目に高い 16.7%となった。



以上